

論 文 要 旨

博士課程 ①・乙	第415号	氏 名	岩切太幹志
<p>[論文題名]</p> <p>頸動脈および腎血管系の動脈硬化性変化と全身動脈硬化との関連性: 剖検症例による検討(一編二冊)</p> <p>1. Usefulness of carotid intima-media thickness measurement as an indicator of generalized atherosclerosis: Findings from autopsy analysis (Atherosclerosis, 225(2): 359-362, 2012)</p> <p>2. Association between renal vasculature changes and generalized atherosclerosis: an autopsy survey (Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, in press)</p> <p>[要 旨]</p> <p>動脈硬化は全身の動脈で進行するが、その程度は血管の種類や部位によってさまざまである。動脈硬化性疾患のリスク評価として、超音波検査による頸動脈内中膜厚 (common carotid artery intima-media thickness: CCA-IMT) の計測が行われているが、病理組織学的に検討した報告はない。また近年、心疾患や脳血管障害が腎障害と関連すること (心腎連関、脳腎連関) が報告されているが、冠動脈・脳動脈と腎血管系の硬化度の関連についても明確ではない。本研究では、剖検症例を用いて CCA-IMT および腎血管系の動脈硬化性変化と全身主要動脈硬化との関連について病理組織学的に検討した。</p> <p>(第一冊) 剖検症例 (111 例) を用いて全身主要動脈の動脈硬化を組織学的に検討し、CCA-IMT との関連を検討した。CCA-IMT は冠動脈、脳血管、胸・腹部大動脈および腸骨動脈の内膜/中膜比と有意は正相関を示し、CCA-IMT の増加に伴い脂質コアを有する進行病変の頻度も有意に上昇した。以上より剖検症例による病理組織学的検討からも、CCA-IMT が全身血管の動脈硬化を反映する優れた指標であることが示唆された。</p> <p>(第二冊) 透析、腎不全症例を除く剖検症例 (107 例) を用いて、腎血管系と全身主要動脈の硬化度の関連性を検討した。腎血管系の評価は、腎動脈と腎実質内動脈は内膜/中膜比を、腎細小動脈は硝子化率を、糸球体は硬化率を計測し、全身主要動脈の内膜/中膜比および進行病変との関連について解析した。腎血管系の動脈硬化は全身主要動脈の動脈硬化と関連した。また年齢、高血圧、糖尿病などその他の危険因子を加えた多変量解析の結果、糸球体硬化と冠動脈内膜/中膜比、腎動脈および腎細小動脈と脳血管の進行病変率は優位な相関を認め、組織学的にも、腎血管系の硬化が心血管疾患と関連することが示唆された。</p>			
備考 論文要旨は1, 000字程度にまとめるものとする。			